

## 日本歯科医学教育学会 教育システム開発賞歴代受賞者

回数	年度	受賞者	所属	発表題名	発表大会名
1	平成14年度	大槻 昌幸	東京医科歯科大学大学院 う蝕制御分野 助教授	窩洞形成シミュレーションシステムの開発 第4報 う蝕情報の追加	2002年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2002年7月12日発表)
2	平成15年度	河田 英司	東京歯科大学 歯科理工学講座 助教授	SGDを取り入れた「情報科学」	2002年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2002年7月12日発表)
3	平成16年度	魚島 勝美	新潟大学医歯学総合病院 教授	新潟大学歯学部における総合模型実習 の試み	2004年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2004年7月2日)
4	平成17年度	木下 淳博	東京医科歯科大学歯学部 口腔保健学科	コンピュータによる歯科臨床 シミュレーション教育システムの開発	2005年度 日本歯科医学教育学会 学術大会 (2005年7月8日発表)
5	平成18年度	吉岡 隆知	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 口腔機能再構築学系 摂食機能保存学講座 歯髄生物学分野 助手	医歯学シミュレーション教育システムの 改良-作成教材のレビューシステムおよび ネットワーク対応について-	2006年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2006年6月16日)
6	平成19年度	大山 篤	東京医科歯科大学歯学部 助教	歯学科4年生が臨床実習中の6年生に 教わる臨床体験実習プログラムの開発	2007年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2007年7月6日)
7	平成20年度	原 哲也	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 咬合・有床義歯補綴学分野 准教授	学生のリアルタイム評価を応用した 授業内容改善FDシステムの開発	2008年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2008年7月11日)
8	平成21年度	荘村 泰治	大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 教授	VR触力覚を用いた歯科ハンドスキル シミュレーショントレーニング(第3報) システム概要と実習教育への応用	2009年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2009年11月6日)
9	平成22年度	須永 昌代	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 助教	術者目線のオリジナル3Dムービー作成・ 供覧システムの開発	2010年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2010年7月23日)
10	平成23年度	羽村 章	日本歯科大学附属病院 総合診療科 病院長・教授	新たな歯科臨床実習用ヒト型患者ロボット シミュレーションシステム(SIMROID®)の 開発	2011年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2011年7月16日)
11	平成24年度	菅沼 岳史	昭和大学歯学部 歯科補綴学講座 准教授	医療面接スキルに対するバーチャル ペーシェントシステムの有効性	2012年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2012年7月20日)
12	平成25年度	受賞者なし			
13	平成26年度	長島 正	大阪大学歯学部附属病院 口腔総合診療部 准教授	臨床実習・臨床研修連携ログブックの 電子化 第4報 臨床実習と臨床研修の 連携	2014年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2014年7月4日)
14	平成27年度	小田 陽平	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 組織再建口腔外科学分野 助教	診療参加型歯科臨床実習における web公開型eポートフォリオ -第2報 運用実績とシステム改善について	2015年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2015年7月10日)
15	平成28年度	片岡 竜太	昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門 教授	3大学共通の3年間にわたる能動的 教育システムの実施とその効果	2016年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2016年7月1日)

## 日本歯科医学教育学会 教育システム開発賞歴代受賞者

回数	年度	受賞者	所属	発表題名	発表大会名
16	平成29年度	則武加奈子	東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科総合診療部 助教	歯科学生と歯科衛生学生が診療参加型 臨床実習で協働する新しい多職種連携 実習の開発と教育効果	2017年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2017年7月28日)
17	平成30年度	鈴木 昌	東京歯科大学市川総合病院 救急科 教授	高機能シミュレーターを使用した偶発症 対応実践型教育プログラムの開発	2018年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2018年7月27日)
18	令和元年度	楊 秀慶	日本歯科大学附属病院 小児歯科 講師	可動式側方脱臼歯整復模型の教育効果	2019年度 日本歯科医学教育学会 学術大会発表 (2019年7月19日)